

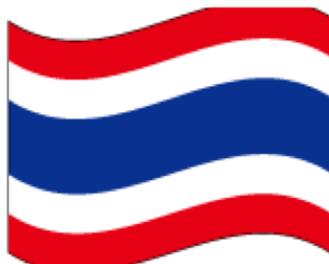
「タイ知る」の思い出

&中米ホンジュラスのお話

&語学学習法について



アメリカ1985-1990



タイ2012-2021



ホンジュラス1993-1995



フィリピン

タイを知る会 2021年6月18日(金)

タイトル

「タイ知る」で学んだこと&ホンジュラスのお話&語学学習について

発表概要

1 「タイ知る」で学んだこと

これまでアメリカ、中米ホンジュラス、フィリピンと海外生活が長いのですが、タイには2012年末に来て、8年半過ごしましたので、海外生活の中で一番長くなりました。

一番最初にタイに来たのは、フィリピン在住中で2005年頃だったと思います。当時のフィリピンに比べ、タイはすごく発展していて、道路事情などもフィリピンに比べると格段に良く、また美しいお寺や美味しい料理などタイの文化に触れて、とても憧れる国でした。

ところが、実際に駐在で来てみると「微笑みの国タイ」はそんなに微笑んでくれず、「微笑み」は金次第か？とちょっとがっかりしたものでした。8年間暮らした今は、タイ人にもいい人もいるし、悪い人もいる、というしごく当たり前の結論に至りました。

教訓：あまり期待しすぎるとがっかりする！

ただ、タイの文化は本当に美しいし、それは今でも最初の印象のままです。また、日本人もタイ好きな人が多いですし、タイ人も日本のことを好ましく思ってくれている人が多いので、とても住みやすいと感じました。

「タイ知る」は私のタイ生活を本当に豊かにしてくれたと思います。もし、「タイ知る」に入っていないかっと思ったらと思うとゾッとします。「タイ知る」のメンバーはこの8年の間にもどんどん入れ替

わってきましたが、前向きで好奇心旺盛なポジティブな方ばかりでいつも元気をもらえる場所でした。

「タイ知る」を通して、色々なタイの方に出会い、観光では決していけない場所に連れて行っていただけたら、色々なお話を聞いたことは本当にいい思い出です。中でも「タイ王立舞踊団公演」と「タイ伝統人形劇公演」は準備も大変でしたが、当日本当に多くお客様が来てくださり、間近で素晴らしい公演を観ることができて、本当にやってよかったなど感激しました。また、2017年ー18年には代表を務め、2019年の30周年記念誌作成に携わることができたのもいい思い出です。また、2016年10月にラーマ9世が崩御され、御葬儀が1年間続き、その間に2回参列できたこと、立派な火葬殿を訪問できたことも懐かしく思い出されます。

教訓:大変だったことの方が良い思い出になる！

入った当初の「タイ知る」は今よりももっとピリッとした雰囲気でしたが、入るのをやめようとは思いませんでした。今は和気藹々とした雰囲気でもその時のメンバーがみんなで作ってあげれば良いのだと思います。これからも少しずつ形を変えながら、「タイ知る」はずっと続いていくものと思います。

教訓:「タイ知る」は続くよ、どこまでも。

2 ホンジュラスのお話

1993ー95年に在ホンジュラス日本大使館で専門調査員として務めた際のお話です。ホンジュラスというと「なにそれ、怪獣？」と言われることもあるくらい日本人には馴染みのない国だと思いますが、メキシコとコロンビアの間に挟まれた狭くなっている部分を中米と呼び、その中の小さな国です。スペインの植民地でしたので、先住民であるマヤの末裔とスペイン系の白人との混血が進んだ「メスティーソ」の国です。かつては「バナナリパブリック」と呼ばれ、バナナプランテーションが今も残っていて、バナナは今でも主要な輸出品の一つです。もう一つの主要輸出品であるコーヒーはあまり有名ではありませんが、実はほとんどのブレンドコーヒーやインスタントコーヒーの原料として使用されていて、皆さんも知らないうちに飲まれているかと思います。

ホンジュラスの使用言語はスペイン語、人口は今では1000万人弱、在留邦人は今も当時から変わらず、200人弱です。在留邦人のほとんどがJICA関係者と大使館関係者だったので、ほぼ全員知り合いで、たまに旅行者を見かけると「旅行者が来てるよ」というふうにすぐに噂になります。

当時は貧富の差が大きく、物価が安いという典型的な発展途上国でした。隣国のエルサルバドルやニカラグアのように内戦をしているわけではないとは言え、治安は悪く空き巣に入られたこともありました。また、水力発電所の貯水池が渇水し、計画停電が行われ、より治安が悪くなりました。

現地の典型的な食べ物はトルティーヤと呼ばれるとうもろこしからできた薄いパンのようなものとしょっぱいあんこのようなフリホーレスと呼ばれるものです。お世辞にもそんなに美味しいものでもないです。当時、日本食店が一軒だけありましたが、日本食と呼べるようなものではなく、1度か2度くらいしか行きませんでした。因みに日本食店のオーナーは後に在日ホンジュラス大使として派遣されました。華僑の人たちはホンジュラスにも(少なくとも日本人よりも)たくさんいて、豆腐などの食材などを中華系のお店で購入していました。中華料理店にはよく行き、とても救われました。(因みに日本食材は大使館館員全員分をまとめてアメリカにある日本食材店に注文していました。)

教訓:知らないうちに知っていることもある、ホンジュラスコーヒーのように。

3 語学学習について

根っから語学学習が好きで趣味のようなものです。これまでに学習した言語は英語、スペイン語、フランス語、タガログ語、タイ語です。語学好きは父からの遺伝です。

時々、「英語のセンスがないから英語が上達しません」という方がいますが、語学において私達のレベルでは、「センス」も必要ないと思います。唯一、必要なものをあげるとすれば、「英語が好き」、「英語楽しい」と思えるかどうか、なのかなと思います。なぜなら、好きでないことを続けることは難しいからです。

教訓:好きなことは続けられる。続けたいことを好きになろう。

大人になると語学の習得は難しい、子供の方が早い、と言われることがありますが、これは迷信、もっと言えば、大人の言い訳です。子供が現地校やインター校で毎日7時間英語漬けになっている時間を大人が費やすと実は大人の方が早いとも言われています。

教訓:言い訳しない。

残念ながら語学学習に近道はありません。英語(また全ての言語)はピアノやゴルフのような「スキル」です。ですので、理論をいくら習っても話せるようにはなりません。流暢な日常会話ができるようになるには2000時間学習(練習)する必要があると言われていています。すでに中高6年間の英語学習を含めると皆さんかなりの時間を費やしてきたはずです。ですから、多くの日本人はもう英語を「勉強」する必要はないと思います。十分な基本的知識や文法が入っている方が多いです。なのに、「話せない」方が多いのは①語彙力が不足している、そして②圧倒的にアウトプットの練習が足りていないからです。

学ぶ=まねる、とよく言われますが、語彙力が足りないと何を言っているのかわからないので、まねることができません。聞き取れないものは理解できないし、使えるようにもなりません。

語学学習全般に言えることですが、はっきり言って、語彙が80%を占めると思います。ただ、問題は語彙を増やす作業が一番単調でつまらない作業だということです。ですから、意思が固くて一人でできる方は語彙を増やす努力を続ければ独学でかなりできるようになると思いますが、普通の方は、誰か仲間を作ったり、先生についての方がいいと思います。

教訓:語彙が8割

みなさんもタイ語教室などに行く時、「今日は何を教えてもらえるのかな」と受け身で行っていると思います。私もそうでした。話せるようになるには、その後、どれだけ自分で「練習」するかです。ゴルフの素振りのように、ピアノの練習のように、身体に染みつくまで練習をしないと話せるようにはなりません。誰に習うかではなく、どれだけ自分が練習を続けたかです。では、英語の「練習」とは何か。これは「音読」です。これが英語練習の王道です。近道はありませんが、王道はあります。やる気がある時もない時も音読を続けてみて下さい。

教訓:音読が語学学習の王道。

私が今、英語を教えている生徒さんにいつも言っていることは、「英語は頑張らなくていいです。頑張って英語の練習を習慣にしてください。」ということです。習慣だけが私達を作ります。「大人だからできない」という言い訳はやめてどんなことでもできるようになるまで続けたら、できるようになっています(笑)。

教訓:習慣だけが私達を作る。そしてできるようになるまでやめない。

We are what we repeatedly do.

Excellence, then, is not an act, but a habit.

-Aristotle

(私たちは繰り返し行なっていることの結果である。だから、あらゆる偉業が一つの行為でなく、習慣によって成し遂げられる。ーアリストテレス)

以上